



お客様の信頼を得るために

お客様満足実現のため、お客様のニーズがどのようなものを常に確かめながら、品質の高い製品を供給することに努めています。また、様々なツールを通して当社の技術力をPRし、お客様との関係を深めています。

お客様満足の実現

お客様満足の実現のためには、お客様ニーズの的確な把握とニーズの背景にある原因の分析が欠かせません。お客様からいわれたことだけに対応するのでは、お客様の満足度は中途半端なものになりかねないこともあるからです。例えば工場などの構内の舗装では、トラック等の重車両が通行する部分と乗用車のみが通行する部分では、舗装の厚さや材料を変えることなどで耐久性を向上させます。きめ細やかな提案を行い、施工の時期、施工の条件、品質、近隣の皆様への配慮などを確実に施工部署に伝え、見積もり、設計、施工に反映させることで、お客様満足の実現に向けて進んでいきます。

利用者目線でのものづくり

当社が施工する施設は建設後多くの方々に利用されます。歩道の遮熱性舗装は、ヒートアイランド現象への対応とともに、暑さが少しでも和らぎ歩行者が歩きやすい道を、というニーズに応えたものです。皆様が常日ごろ使われる道路もそうです。読者の皆様のなかには、雨天時の高速道路が以前に比べて大変走りやすくなっていることを実感されている方もいらっしゃるのではないでしょうか。これは「交通事故が起きにくく安全に走れる道路を」というニーズに応えるために、雨天時の水はねを防止するための排水性舗装や、冬場に道路が凍結して事故が起りやすくなる状況を改善する凍結抑制舗装等を開発してきた成果です。

確かなものづくり

施工担当者は、厳格な品質管理を行い、お客様に品質の高い製品を供給する体制を整えています。施工の各段階での品質検査、結果の整理・確認を行い、不良原因の早期発見・排除を進め、品質の確保に努めています。また、事前に社内での完成検査を行い、引き渡しのできる状態か厳重なチェックをした上で、お客様の完成検査を受けています。



四谷(2)舗装修繕工事で国土交通省関東地方整備局長からいただいた表彰状

技術力と技のPR

当社の技術力と技をPRするコミュニケーションツールとして、ニッポ・ニュースやホームページがあります。

ニッポ・ニュースは当社が持つ様々な工法についての情報を掲載したもので、年6回発行し、お客様にお届けしています。タイムリーな施工実績の紹介が好評です。

当社ホームページにも「技術情報」のコーナーを設けており、誰でも簡単に当社の技術に関する情報を閲覧することができます。また、「問い合わせフォーム」を通じていただくご質問・ご要望には、担当者が迅速にお答えしています。2009年度は293件、2010年度には272件のご質問・ご要望をいただきました。

ニッポ・ニュースは、ホームページよりご覧になれます。
http://www.nippo-c.co.jp/news_pdf/index.html



アンケートより

- お客様からの意見を載せてほしいです。(従業員)
- 不特定多数の方々に広く意見を求め、活動に反映させ一歩一歩向上していく姿勢は大変評価できる。(取引先)

従業員とのかかわり

人間尊重いきいき委員会

当社では、「人間尊重」をCSRの柱の一つとして位置づけ、「人間尊重いきいき委員会」を設置。「労働環境整備の推進」、「健康増進(心とからだ)の推進」、「高齢者・障害者雇用の推進」「次世代育成支援対策の推進」および「人権問題に関する啓発活動の推進」に取り組んでいます。また、能力開発、資質の向上のための従業員教育を充実させ、社会に誇れる従業員の育成を図ります。

労働環境整備の推進

建設産業においては、天候等の自然環境や交通事情等により仕事の進捗状況や施工方法が左右されるため、労働時間が不規則となる傾向があります。このため不定期に過重労働になる場合があり、健康障害防止対策の徹底が求められています。当社では、こうした問題に対して、労使で構成する労働時間検討委員会にて対応策を検討し、実施しています。過重労働による健康障害防止対策としては、疲労蓄積度セルフチェックを実施し、必要に応じて保健師の面談や医師の面接を行っています。そのほかの職場における問題についても、労使共通の認識を得られるよう各支店の労使懇談会等で話し合いの場を設け、より良い労働環境の実現に向けて努力しています。

健康増進(心とからだ)の推進

従業員の健康管理は、労働安全衛生法に則した定期健康診断を基本として、保健師の指導や本人が検査項目を選択できるオプション健診を取り入れ、きめ細やかな健診ができるように配慮しています。メンタルヘルスについては、対応マニュアルを社内イントラネットに掲載して周知しています。今後も従業員の心身両面にわたる健康づくりと、従業員を支える家族の健康管理に配慮していきます。

高齢者・障害者雇用の推進

健康で、働く意欲のある定年退職者に、「生涯現役」として活躍していただくため、満65歳までの再雇用制度を導入しています。また、障害者の雇用については、全国の支店(12カ所)ごとに法定雇用率(1.8%)の達成を目標に定め、2011年6月1日現在の雇用率は1.87%となっています。

次世代育成支援対策の推進

仕事と子育ての両立が可能な働きやすい環境を作ることで、従業員全員がその能力を十分に発揮できるようにするため、2010年4月1日から2015年3月31日までの5年間で①育児・介護休業法等の諸制度の周知、②年次有給休暇の取得日数を増やす(年間7日/人)、③子どもが、保護者である従業員の働いている姿を見学できる「子ども参観日」の完全実施、を達成すべく目標を定め、取り組んでいます。

人権問題の啓発活動

人権問題に対する理解を深めるため、啓発活動を推進しています。今後も研修等を通じ、意識向上を図っていきます。

従業員教育

従業員教育の一つとして、CSRの徹底を図るために、業務運営に直結した本社部門連携研修を実施しています。一人ひとりがCSRの重要性を認識し、日常業務でのCSRの確実な実践により企業価値を高めることを目指します。

アンケートより

- 学生のときに見たかったので、学校等への配布を増やせばよいと感じる。(従業員)
- 再雇用ではなく65歳定年が社会的に進められています。人材育成の観点からも良いと思います。(取引先)



私のCSR 東京東出張所 宮崎教司

私たちの事業所では、3年ほど前より対話形式の「品質ミーティング」を全現場で実施しています。品質面で注意する点と対策を全員で考えることで「確かなものづくり」を実践できるよう意識を高めています。最近では作業員の人からも積極的な意見が出始めています。



私のCSR 北海道支店総務部総務グループ 上石典生

「人間尊重」という文字だけ見れば、とても大きなテーマに取り組まなければいけないように感じてしまいがちですが、従業員一人ひとりが会社生活を支障なく過ごせることこそが「人間尊重」につながると思い、職場における良い潤滑油となり、当たり前に行われるよう意識して行動しています。



社会とのコミュニケーション

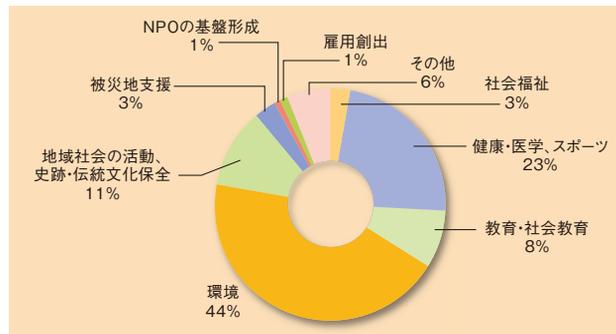
災害復旧支援活動

当社では、災害時のインフラ復旧や障害物撤去などの重要な役割を社会から期待されていることを深く認識し、長年培ってきた土木技術と全国の事業所網を活かして、地震をはじめとする自然災害が発生した場合には、「安否確認システム」を通じて従業員の安否を確認し、復旧支援体制を組んでいち早く現場に駆けつけ、地元自治体等と連携して、道路を中心としたライフラインやガス復旧工事などの復旧活動にあたっています。

東日本大震災に際しては、被災自治体からの要請に対応して、資材提供や施工を行い、支援物資等を被災自治体、被災従業員等へ寄贈しました。また、従業員からの募金と会社拠出金を合わせ、被災自治体や被災従業員に義援金、見舞金を送りました。さらに、2011年度新入社員34名を、研修の一環として、3班、10日間ずつ被災地のボランティア活動に派遣しました。

社会貢献活動

□2010年度社会貢献活動の分野別支出額(東日本大震災を除く)



■地域活性化・スポーツ振興への取り組み

当社は、日本最大の自転車ロードレース競技「ツール・ド・北海道」に、1989年の第3回大会から継続して協賛と自社チームの参戦を続けています。2010年の第24回大会は、函館市営競輪場で開幕し、5日間で延べ636kmを走破し、当社チームは、個人総合2位、団体総合2位の好成績を収めました。このほか、ツアー・オブ・ジャパン、ジャパンカップサイクルロードレース等、シーズンを通じて数々の大会に参戦し、自転車競技の振興をお手伝いしています。

このほか、剣道部は各種大会で連続入賞、テニス部は関東実業団や全国実業団へ駒を進めるなどの活躍を通じて、スポーツ振興に取り組んでいます。



ツール・ド・北海道への協賛・参加

■地域とのコミュニケーション

当社は、スポーツ、学術・研究をはじめ国際交流等の寄付を通じて、社会の期待に応えています。また、全国400以上の事業所では、地域の祭礼や町内会・子供会等の交通安全、防犯活動等のイベントに従業員が積極的に参加するとともに、多くの事業所で、独自の清掃・環境整備活動を自主的に実施しています。



愛媛県今治市玉川町與和木での秋祭り



大阪出張所での清掃活動

アンケートより

- 社会とのコミュニケーションの中で地域住民との和を大切にす姿勢に感動しました。(従業員)
- 自転車競技チームは本当に立派な成績を残して誇れることだと思うので、もっとアピールしてもいいのではないかと思います。(従業員)

- 災害復旧活動を積極的に取り組む姿勢はずっと続けていただきたいと思います。(取引先)
- 社会貢献活動の中で、各事業所独自で取り組んでいる活動の内容をもっと知りたい。(従業員)



私のCSR 尾道・松江自動車道中野北舗装工事事務所 桑原靖之

単独有期工事の担当という立場上、中国地方の様々な場所に、1年に1回程度、現場事務所を設立します。その現場事務所を、地域の子どもたちが危険な目から避難し、助けを求められることができる「子ども110番の家」としています。仕事を行う地域に少しでも溶け込み、貢献できればと考えています。